

大学図書館は外国出版物の最大の市場にかかわらず、国立大学における外国出版物特有の様々な制約から、国内出版物と比較すると合理的価格設定及び購入手続き等が行われてきたと言い難く、大学が主体的に予定価格算出上の根拠を確立し、従来の契約方法の見直しをする等、外国出版物購入事務の改善を図るとともに、近年における外国為替相場の変動に対する適切な対応が必要とされる。この前提をもとに「外国出版物購入に関する諸問題の改善に向け」以下のサブテーマが検討、討議された。

#### サブテーマ（１）競争原理の導入と価格問題

一般競争入札に付した外国図書購入契約に関する事例報告及びそれに係る契約事務の検討。

#### サブテーマ（２）予定価格の算出

外国出版物における予定価格の算出方法ならびに算出結果の分析及び予定価格算出の今後の課題を討議。

#### サブテーマ（３）価格格差の解消に向けて

##### （その１）流通経路の改善

外国図書における直接購入の実施経過の報告と、それに係る予定価格算出方法および外国雑誌における並行輸入の促進に関する諸問題を討議。

#### （その２）出版元定価における差別価格について

海外において起因する不適当な価格設定の問題、いわゆる出版元定価における差別価格の実態について紹介され、不当な価格差別の解消に向け日本国内の対応だけでなく、I F L A等の国際的機関と連携し、今後解決していくことを合意。

今回のシンポジウムは、それぞれのサブテーマに示されている外国出版物がかかえている価格問題、流通経路の改善ならびに差別価格の問題について活発な討議がなされ、実務上参考となるものが多々あった。また、このシンポジウムによりできたネットワークを活用し、今後これら問題を個々の大学で努力し、大学間で情報の交換を行い協力し解決していくことを確認しシンポジウムを閉会した。

## 「京都大学図書館業務 関係規程集」の刊行

このたび附属図書館では、「京都大学図書館業務関係規程集」1989年版を刊行した。

これは、現行版が1982年に刊行されて以来、相当年数が経過しており、この間に附属図書館の新館への移転や近年の図書館関係業務の大幅な見直しに伴い、関係諸規程も改廃等整備されたものが多く、関係者から改訂版作成の要望があったものである。

この規程集は、1989年5月現在（一部、5月以降のものを含む。）の成文化された学内の関係規程等を、管理、利用、文献複写・図書撮影等の各関係別に分類のうえ収録しており、図書館（室）勤務者の業務の円滑な遂行のためにご活用いただきたいと思っている。

## 英文図書館利用案内の紹介

外国からの留学生増加にともない附属図書館でも外国人の図書館利用者が急増しています。

このため附属図書館では、留学生のための英文利用案内の改訂版をつくりました。この案内では、図書館のサービス時間、図書・雑誌のほか、施設の配置図を含め業務全体にわたって図書館サービスのアウトラインが一目でわかるように説明してあります。このパンフレットは、最初の利用申込み（ライブラリーカードの交付）と同時に配布できるよう受付カウンターにおいてあります。

なお、附属図書館では、留学生用図書として、日本の歴史、風俗、芸能等日本関係の洋書約300冊を購入しており、観光案内、地図等は一階の参考図書コーナーにまとめてあります。